



JSR 株式会社

取締役社長 小柴 満信 殿

「JSRグループ CSR レポート 2016」

第三者検証 意見書

2016 年 7 月 13 日

一般社団法人 日本化学工業協会

レスポンシブル・ケア検証センター長

高瀬純治



■ 報告書検証の目的

レスポンシブル・ケア報告書検証は、JSR株式会社が作成した「JSRグループ CSR レポート 2016 の冊子版及びWeb版」(以後、報告書と略す)に記載されている、下記の事項について、化学業界の専門家であるレスポンシブル・ケア検証センターが意見を表明することを目的としています。

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性について
- 2) 数値以外の記載情報の正確性について
- 3) レスポンシブル・ケア活動及びCSR活動について
- 4) 報告書の特徴について

■ 検証の手順

- ・本社において、各サイト(事業所、工場)から報告される数値の集計方法の合理性、及び数値以外の記載情報の正確性について調査を行いました。調査は、報告書の内容について各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること、並びに彼らより資料提示・説明を受けることにより行いました。
- ・鹿島工場において、本社に報告する数値の算出方法の合理性、数値の正確性、及び数値以外の記載情報の正確性の調査を行いました。鹿島工場での調査は、各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること、資料提示・説明を受けること、並びに証拠物件と照合することにより行いました。
- ・数値及び記載情報の調査についてはサンプリング手法を適用しました。

■ 意見

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性について
 - ・数値の算出・集計方法は、本社及び鹿島工場において、合理的な方法を採用しています。
 - ・調査した範囲に於いて、数値は正確に算出・集計されています。
- 2) 数値以外の記載情報の正確性について
 - ・報告書に記載された情報は、正確であることを確認しました。原案段階では表現の適切性、文章の分かり易さに関し若干問題があることを指摘しましたが、現報告書では修正されており、現在修正すべき重要な事項は認められません。
- 3) レスポンシブル・ケア(RC)活動及びCSR活動について
 - ・JSRは、2014年7月に四日市工場で発生した重大労働災害を重く受け止め、安全基盤改革プロジェクト(PJ)と労働災害撲滅PJの2つの全社プロジェクトを立ち上げました。2015年度、安全基盤改革PJは安全基盤の「組織、仕組み及び設備」に関する見直しと対策に取り組み、労働災害撲滅PJは労働災害撲滅の設備対策の実施と安全文化の「人及び風土」に関する課題抽出と対策の提言を行ないました。この2つのプロジェクトの精力的な活動を評価すると共に、今後これらの対策及び提言を完遂し、安全基盤及び安全文化が確実に再構築されることを期待します。
 - ・毎年有識者とJSR幹部との対談を企画し、JSRグループの取り組んでいるCSR活動について意見交換を行っています。この対談内容がCSRレポートに公表されると共に対談の成果が、JSRグループが取り組むCSR活動の重要課題の見直しという形で反映されているこの一連の取り組みを高く評価します。
 - ・鹿島工場のRC活動のテーマである「環境負荷の低減」では、中長期的な目標達成の観点より大型投資のグランドフレアーや蓄熱燃焼式の脱臭設備の設置及び鹿島南共同発電所のC重油から天然ガスへの燃料転換などを順次実施してきました。一方、年度計画として2015年度「省エネ&CO2 削減活動計画」にあるような大型モーターのインバーター化や蒸留塔の老朽化更新等各種省エネ項目の積み重ねを実施し、さらに設備及び作業方法の改善等にも取り組み、工場の環境クレーム(臭気、騒音等)発生の「ゼロ」を継続していること、CO2の排出削減では1990年対比6%削減目標に対し2015年度は14.3%削減を達成していること、VOCの排出削減では2000年度対比70%削減目標に対し2015年度は79%削減を達成していることなど着実に成果を上げていることを評価します。
- 4) 報告書の特徴について
 - ・本レポートはJSRグループのCSR活動の取り組みを豊富なデータ類と共に網羅的に報告しているWeb版とそのハイライトをかなり絞り込んで報告している冊子版とで構成されています。

以上